

# 2024年度 蒼開中学入試 A 方式(前期試験) 分析

分析者：明光義塾 淡路学区 塾長 増田文治

## 【算 数】

問題傾向は例年どおり大きく変わらず、大問1の計算問題にはじまり、特殊算や規則性、図形、比と割合の問題等が出題された。計算問題は公立小学校標準～応用水準ではあるが、工夫を要する計算問題や速さの単位変換も毎年出題されるため、十分に対策をして満点を狙ってほしい。

大問3は図形の面積や周りの長さを求める問題である。本年も典型的な円と正方形についてであり、得点源になり得る。

大問4～6は、場合の数、組み合わせ、速さ問題（短針長針）等の問題が出題された。割合問については今年度は単独で出題されていないが頻出問題なので苦手な受験生は優先的に対策しておく事。また特殊算や組み合わせの問題がよく出題されるが学校では十分に学習しないので、受験対策教材での基本演習も必要である。全体的に比較的スタンダードな問題形式であるため、得意な問題から取り組み時間の無駄を作らないようにすれば、高得点を十分狙える。

そしてインプットした知識や現在の実力を試すため、各種模試、全国統一小学生テスト、そして蒼開中プレテストには積極的に挑戦してほしい。特に後半の大問で見られる順列組み合わせ、比等の問題はプレテストで特待生を狙う場合、小6夏期時期には攻略しておきたい内容である。これらの模試を通じて問題解答時間を自己確認することが重要で、模試の数をこなしていくと自ずと解答速度も上がる。さらには問題文から読み取れる情報を図に書き込み、理解の補助とするなどの技術を日ごろから鍛えておきたい。

## 【国 語】

同校の国語は、神戸市内中堅校の入試問題と何ら変わらない難易度があると言っても過言ではない。文章が長く、普段からこの分量の文章読解に慣れておかないと、試験時間が不足してしまうおそれがある。そのため、問題を解く順番を工夫（大問3→1→2など）するのもよいだろう。

大問1は説明文、大問2は物語文の読解問題である。漢字の読み書き、四字熟語や慣用句、心情表現などのことばの意味を問う問題が必ず出題される。知識問題だからといって、直前になって詰め込むことのないように、日ごろから少しずつ習得しておく事。

設問は指示語の内容を問う問題、筆者の主張を記述形式で答える問題、登場人物の気持ちや行動の理由を問う問題である。

説明文では、段落どうしの関係を読み取りながら結論や筆者の主張を捉えられるようにしておきたい。物語文では、場面や情景を捉え、文章を深く読むことを心がけること。ともに抜き出して記述する問題があり、これは受験対策教材で練習しておいてほしい。

大問3は、漢字やことわざ、敬語など知識問題であり得点源になる。ただし絵画数問題はやや難しいので注意。対策としては直前に駆け込み学習をするのではなく受験する最低1年前から、1日10分で良いので漢字、ことわざ、画数等を学ぶ時間を作りたい。

## 【理 科】

理科4分野からまんべんなく出題されるが、本年は物理系に比重がおかれた印象。熱力学、水及び空気の性質や変化、ヒトの体や消化の仕組み、天気や台風など、出題範囲は多岐にわたる。記述式問題は近年の特徴であるが、その分量は増加傾向なので理科の記述問題対策は必須となり引き続き難化印象を受ける。

身近な話題から考察する問題なども含まれ、これらの問題の攻略は用語の理解にある。これらは標準的な中学入試用問題集には基本問題として出題されているので、おさえておきたい。また小学校の教科書やそれに準じたワークでは受験に必要な知識が不足してしまうため、標準的な中学入試用問題集で一通り演習しておく事。地学分野（気象や天体、地層や地震など）は基本的な語句を習得していれば、高得点を狙える。教科書や問題集によく出る写真や図と関連付けて、語句を覚えておくこと。そして、物理分野（水溶液や電気、力など）では、記述を含む計算問題が出題される。実験結果の表やグラフから数値を読み取る練習を繰り返す事が肝要。問題の難易度は決して高くないが、各分野最終問題等は考えさせる問題も出るので、類似問題の演習は欠かせない。

## 【面 接】

試験官2名に対して受験生1名の個人面接で、主に1名の試験官が質問する。6～9分間の面接の流れは以下の通りである。

1) 入室と挨拶 2) 受験番号、氏名を伝える 3) 5個程度の質問やその返答 4) 終了時の挨拶と退室

質問内容については、志望理由、自分の長所や短所、試験の出来具合、得意な教科と苦手な教科、将来の夢、入学後にやってみたいこと、塾へ行っているか、自分を動物にたとえるならば何、などが近年ではよく質問されている。ほかにも、小学校生活で楽しかったこと、友達関係について、勉強時間や塾には通っているか、など聞かれることがあり、返答に対する追加の質問（その理由など）もある。対策としては、書店などで販売されている中学入試の面接に関する書籍を読み、事前に予行演習をしておけば問題ない。また緊張して小さな声にならないように、受験1ヶ月前くらいから勉強の合間に練習をしておくともよいだろう。